

湘南慶育病院

勾坂 歩夢(リハビリテーション部 / 作業療法士)

功 績 作業療法士の勾坂歩夢は、回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中患者に対して、先端的反リハビリテーション機器である視覚誘導性錯覚 (KINVIS) とAI統合型筋電駆動ロボットハンド (MELTz®) の併用による作業療法を展開した。その内容を当院作業療法士である姫田 (主任)、廣瀬 (主任)、山岡 (科長)、丸山 (部長) の指導を受けて、第20回神奈川県作業療法学会で発表したところ、最優秀演題賞を受賞し、学術的貢献ならびに当院の知名度向上に貢献した。

推薦者氏名 山岡 洸 (リハビリテーション部 科長)、丸山 祥 (リハビリテーション部 部長)

推薦理由 当院リハビリテーション部作業療法士の勾坂歩夢は、回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中患者に対して、最新のエビデンスをもとに新たな脳卒中リハビリテーション手法を用いて臨床現場で実践し、従来の介入方法では難渋するケースに対して効果的な介入方法を示すことができました。この業績は、単なる実践報告にとどまらず、当院が目指す「質の高いリハビリテーション」を具現化するものであり、若手療法士の模範としても極めて意義深いと考えます。よって、理事長賞に相応しい人物として推薦いたします。

内 容

当院リハビリテーション部の勾坂歩夢は、回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中上肢麻痺患者に対して、脳卒中ガイドラインに基づく最新のエビデンスを背景に、先端的反リハビリテーション機器である視覚誘導性運動錯覚 (KINVIS) とAI統合型筋電駆動ロボットハンド (MELTz) の併用による上肢機能改善プログラムを展開しました。この併用療法は、重度上肢運動麻痺患者の手指の屈曲・伸展運動および物品操作の改善を実現し、日常生活において麻痺手の使用を実現しより妥当なアプローチの根拠につながる事が示唆されました。

重度の上肢運動麻痺患者に対して従来のリハビリテーションでは手指運動麻痺の回復に難渋するケースが多いとされていますが、本報告では神経可塑性を促進するプライミング効果 (KINVIS) と筋電図をAIが学習し手指の随意運動をアシストする支援AIロボット (MELTz®) を組み合わせることで、手指の屈曲・伸展運動および物品操作の改善を実現しました。これにより、課題指向型訓練への移行が可能となり、患者さんの目標とする作業の実現を可能としたことができたため、学術大会において報告しました。

実践の成果について、2025年9月21日に開催された第20回神奈川県作業療法学会で、当院作業療法士である作業療法科主任姫田、廣瀬、科長山岡、リハビリテーション部部長丸山とともに演題を作成し発表したところ、最優秀演題賞を受賞し、学術的貢献ならびに当院の知名度向上に貢献しました。